

焼津市の通級指導教室(ことばの教室・まなびの教室)の担当者として、多くの子ども達を支援してこられた荒井久美子先生に、特別支援教育で大切にしたいことや、一人一人の特性に応じた支援のヒントについて、わかりやすい言葉で書いていただきました。



みんなで「やさしく話そう」

通級指導教室に通ってくる多くの保護者さんから相談される内容に、「子どもへの声かけの難しさ」があります。「子どもが言うことをきかないから、私がいらいらしてつい強い口調で話してしまう。そうすると子どもはさらに反抗的になって…のくり返し。」この悪循環を断ち切りたいとの願いから相談をさせていただきます。

そこで、決まって私がお伝えすることがあります。

『アイ(I)メッセージを伝える』

私を含め、大人は「～しなさい。」「～してはいけません。」などの命令ことばが得意です。これは、「あなたは(YOU)～しなさい。」「あなたは(YOU)～してはいけません。」という、主語が「あなた(YOU)」の話し方です。そうではなく、主語が「私(I)」の話し方をすると相手が聞き入れやすい気持ちになると、以前研修会で教わりました。

例えば、「私は(I) あなたが〇〇するといいなあと思うよ。」とか、「私は(I) あなたが□□したので悲しいよ。」という言い方です。



この話をする、「感情的になっている時には難しい。」と言われます。頭ごなしに怒鳴りつけるのではなく自分を冷静にする効果もあると伝え、「意識してみます。」という前向きなことばが返ってきます。さすが問題意識の高い保護者さんです。

手始めにこんなこともお伝えします。

『語尾を替える』

例：早くかたづけをしなさい。→早くかたづけをしようね。

私(I)?あなた(YOU)?と考えすぎて主語がこんがらがってしまうなら、「いつものことばの語尾だけ替えよう。」と提案します。状況とタイミングも関係してきますが、結構使える手だと思います。

ついでに、こんなことをお願いすることもあります。

『お母さん、女優になって』

通級指導教室に通ってくるお子さんは自己肯定感が低いことが多いです。「一生懸命やったのに『ちがう』と言われちゃった。」「せっかく終わらせたのに○をもらえない。」「またやり直しになっちゃった。」という思いをくり返し味わっているお子さん達です。やり直しをさせたい(させなくてはならない)時は、まちがいをストレートに指摘しないで、「お母さんのやり方(答え)とちがうから、どちらが正しいか確かめるためにもう一回やってもらえるかな?」と話しかけ、やり直しを促す方法を保護者さんに提案します。事実をストレートに伝えることが最良の方法でないこともあります。心の声とはちがうことばを発する力…ある意味の忍耐力です…が求められます。



どの方法も、相手に伝えたい内容は決まっています。どのように伝えるかで、相手の受け取り方が変わってきます。

「やさしく話そう」と子ども達に話しますが、もしかしたら大人の方が、自分の感情や差し迫った状況を言い訳にして、「やさしく話そう」ができていないかもしれないと思いました。